

疑似科学は、素人目には科学的かも知れないが、実際は科学とは無縁のものである。これに対し、仮説の立案は正当な科学の手続きの一部であり、そういう意味では、本書は正しく科学的な本である。

本書の記述は、正確ではあるが硬い感じのする学者の文章と、こなれてはいるがうわつつらを撫でているようなジャーナリストの文章との中庸を保っており、比較的読み易い。惑星探査機の成果などは、簡潔にしかも要領良くまとめられている。仮説/定説の問題を心に留めておきさえすれば、最近の惑星科学の発展を知るためにだけでも、本書を紐解くのもいいかも知れない。

堂谷忠靖 (宇宙研)

銀河にひそむモンスター

福江 純 著
岩波書店, 144 ページ, 1100 円

本書は、数多くの天体现象の中で、特に活動銀河に焦点を当てて書かれた読物である。電波銀河、クェーサー、ブラックホール等の活動銀河に対す

る知識の拡大を、時系列に沿って説明している。断片的な知識を系統的にまとめるには適切な一冊である。

知識の拡大をもたらした観測手段の発達も、異なる波長をまとめて、時系列に説明している。大型干渉計や CCD カメラ等の新しい観測手段の開発が、いかに大きなブレイクスルーになってきたかも、本書によってよく示されている。並べて置かれた図を比べれば、一目瞭然である。

本書は、式も 1 本しかなく、適切な場所にイラストが入っており、非常に読みやすくなっている。また、クェーサーの衣や銀河からのジェット等の論文からの図の引用も、説得力を増している。本書を読むために必要な物理的知識は、本論からそれて適宜説明されている。少なくとも修士課程の大学院生程度であれば、本書だけで閉じた構成になっていて、フラストレーションを貯めずに読み進めることできる。

雑をいえば読み終わった後、ある種の曖昧さを感じたが、現状の活動銀河に対する我々の知識を考えると、致しかたないものかも知れない。もっとも、題名を鑑みると、当然のような気もする。

福重俊幸 (東大教養)

雑報

第 5 回天文教育研究会報告

1991 年 8 月 17 (土) ~ 20 (日) に、愛知県刈谷勤労福祉会館 (愛知県刈谷市) で第 5 回天文教育研究会 (全国大会) が開催されました。天文教育研究会は、天文教育と天文普及に関する研究発表ばかりでなく、それらに関する情報交換の場を提供することを目的として、毎年 1 回、天文教育普及研究会 [代表: 磯部瑠三 (国立天文台)] の主催で行われているものです。今回で 5 回目 (天文教育普及研究会が発足してからは 2 回目) になりますが、毎回、小・中・高校の先生方、教育センターの方、大学・研究所などの研究者、プラネタリ

ウム館、科学館、博物館、公共天文台など社会教育にたずさわっている方、アマチュア活動家、天文機器メーカーの方など、さまざまな立場の方々が全国から参加しており、ユニークでかつ有意義な会となっています。今回の参加者は 163 名で、毎年増える一方です。

今回の会は松本敏雄氏 (名大・理) の一般公開講演会「赤外線で見える宇宙」で始まりました。2 日目は会のメインテーマである「天文学者と天文教育研究者の交流—天文教育実践への提言—」のもとで、「夜間観望会」、「プラネタリウム」、「授業実践」の 3 つのテーマについて、パネルディスカッションを行いました。この日の参加が最も多